

取り調べ直後に電車に飛び込んだ25歳大学職員が遭した

痴漢冤罪

疑 惑 拘束から 絶命まで

慟哭のボイスレコーダー

そこには「自殺の瞬間」まで録音されていた

ドスン、という鈍い音がして、列車のけたたましいブレーキ音が響く。人々が

ざわめく中、救急隊員の怒号が聞こえてくる――。

これは昨年12月、地下鉄早稲田駅で飛び込み自殺した大学職員のAさん（25）のボイスレコーダーに残されていた最後の音声だ。7時間29分41秒にも及ぶ音声ファイルには、ごく普通の男性が思いもよらぬトラブルに巻き込まれ、痴漢を疑われ、命を絶つまでの記録が収められていた――。

*

痴漢は卑劣極まりない犯罪である。女性の心と体に深い傷跡を残す。

警察が厳しく取り締まるのは当然のことではあるのだが、その一方で、さまざまな捜査が新たな被害者を生むケースも後を絶たない。いわゆる痴漢冤罪である。

昨年、本誌では逮捕から一貫して無罪を主張し続けられたものの、有罪判決を受けた取監されてしまった50代のサラリーマンに密着取材した。痴漢冤罪を描いた映画『それでもボクはやってない』のモデルにもなった石

井氏（仮名）は4年にも及ぶ裁判闘争で弁護士費用に1000万円もの大金を費

やし徹底抗戦したが、下された判決は懲役1年6か月。上告も棄却され、昨年7月、ついに収監された。

「こんなことなら、嘘でもやりましたと認めていれば、どれだけ楽だったことか」
こう語るのは、石井氏の妻である。

「痴漢の場合、警察も検察も裁判所も、みんな被害を訴える人と目撃者の話しか信じません。なので、やっていないといえばい

7時間29分41秒



痴漢冤

痴漢と疑われた時に、身を守る方法。

①被害を訴える女性に身分証を提示し、名刺または連絡先を書いたメモを渡す。その上で、「私にはやっていない」「警察の出頭要請にはきちんと応じる。何かあれば連絡を」「それでも不十分に告訴するなら、徹底的に争う」旨をきちんと告げ、その場を去ること。

②警官が現場へ来ると、任意の事情聴取にもかかわらず、携帯電話の使用を制限してくることが多い。警官が来ないうちに家族や弁護士に連絡し、状況を報告しておく。

③警官による取り調べまで事態が進んでしまった場合は、自ら指先の繊維痕やDNA痕の検査を申し出る。被害者の下着の繊維痕や体液が検出されなければ、痴漢をしていないことの証明につながるからである。

当局との対立が深まり、厳しい状況に追いやられる。警察では勾留され家に帰してもらえず、裁判では『反省の色がない』とマイナス材料になり、厳罰が科されます。ところが、嘘でも『やりました、すみません』と認めて、罰金と示談金を数十万円払ってしまえば、すぐ外に出られる。本当、おかしいにもほどがある」

いったん痴漢と疑われたら、無実を証明するのがいかに難しいか——それを示す音声ファイルがある。

昨年12月、痴漢の疑いをかけられた大学職員のAさん(25)が、警察の取り調べ直後に自殺してしまうと

いう痛ましい出来事があった。そのAさんがいつも持ち歩いていた愛用のボイス

「痴漢。そこが始まりだから」

Aさんがトラブルに巻き込まれたのは、昨年12月10日の午後11時過ぎ。同僚とお酒を飲んだ後、家に帰るため、JR新宿駅構内を歩

いているとき、すれ違った女性に「おなかを触られた!」と訴えられたことに端を発する。

女性と一緒にいた知人の男子大学生がAさんに掴みかかり、馬乗りになるなどした。Aさんも激しく抵抗したが、駆けつけた駅員2

人に押さえつけられる事態となった。

Aさんが男子学生や駅員と揉み合いながらも、自ら110番通報し、「暴行を受けている」と説明したため、ほどなく現場に2人の警官が到

レコーダーには、取り調べの一部始終が克明に記録されていた。

着。Aさんは近くの交番に連れて行かれた。

「録っておりますので。(話を)続けていただけますか」(以下、へ)内はレコーダーの記録より)

件のレコーダーの録音は、この交番でのやりとりから始まっていた。

証言するのは、Aさんが亡くなった後、警察から遺品としてレコーダーを受け取ったAさんの母親である。

「息子は英会話の講義を録音し、移動中に聴くのが習慣でした。交番で一方的に質問してくる警官たちに違和感を覚え、録音したのでしよう。

初めて再生ボタンを押したのは、葬儀が終わった翌日。声が聞きたくなってしまうんです。もしたら、息子が聞いたこともないような声で怒っていたり、泣いていたたり……。聞くのは

すぐく、辛かった。でも、息子の死の理由がここに詰まっていると思ったから、何度も聞き返しました」

母親によると、Aさんがこの晩、たどった経緯はこうなる。

交番に連れて行かれたAさんは痴漢容疑をかけられ、必死に嫌疑を晴らそうと闘っていた。

Aさん「私はいきなり突き飛ばされて馬乗りになりました。JRの職員にも囲まれ、詰め寄られた。暴行の被害者だから110番したんです」

しかし、Aさんを交番まで連行したのは、痴漢事件が発生した模様だとして、JRの職員が通報してかけつけた警官で、Aさんが思う「味方」ではなかった。0時40分頃、交番から新宿署にパトカーで移送され、より本格的な取り調べを受

取り調べは4時間以上にわたったが、堂々巡りが続いた。取調官は、

けることになる。取調官は、Aさんにこんな言葉投げかけた。

警官「痴漢。そこが始まりだから」
「女性は真正面からあなたの顔を見ている。何で(触ったのが)あなただといつたのですかね」

「あなた自身が分かっているはず。真実は1つ」

Aさんが何度無関係だと説明し、理由を詳細に熱弁しても、メモさえ取らない。Aさん「私はドキュメンタリー番組やニュースで取り上げられている、痴漢冤罪」の被害者のようになる

のでしょうか?」
「目撃者を探して。私の前を歩いていた人とか」
警官「出てくればいいですね。1日何十万人と通行人が通る新宿駅で」

Aさんの声は次第に弱ましくなっていた。

Aさんのむせび泣く声

「平行線。わかるよね」
「訴え合うしかないな」
と、突き放すようにいい、

あなたが動けば、社会は変わる。

置くだけで
イメージアップ
「夢の自販機」



- 1 アップ 1本につき10円を社会貢献に寄付!
- 2 アップ 社会貢献をPRすることで好感度アップ!
- 3 アップ 設置すると日本財団HPでご紹介!
- 4 アップ 設置・置き換え無料!

ゆめちょ

検索



お問い合わせ先：03-6229-5111

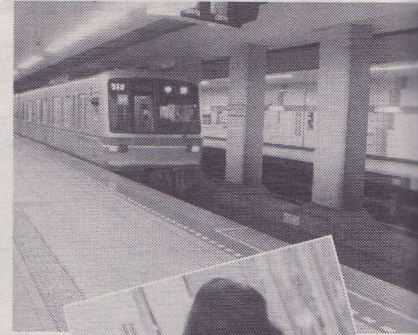


夢の貯金箱
日本財団寄付プロジェクト

後日、出頭する確約書を書くことで、この日の取り調べは一応の終わりを迎えた。その後、Aさんは署内の人気のない場所に移され、仮眠をとっていたようだ。レコーダーから音がなくなり、静寂が広がる。だが、それもつかの間だった。ウウ、ウウウ、ウウウウウウ

「ウウ、ウウウウウウ」
Aさんがむせび泣く声だった。その慟哭は時折、途切れながらも約1時間以上続いた。
午前5時38分。
「よし。行こう」
ようやく立ち上がったAさんは新宿署からタクシード新宿駅に向かい、JRに乗って東京駅へ。それから地下鉄に乗り、東西線の早稲田駅で下車した。東京駅にはAさんの最初の就職先であるJAXA（宇宙航空研究開発機構）が、早稲田

駅には母校の早稲田大学があるため、最後に立ち寄ったのではないかと、母親はいう。
「ウウ、ウウウウ」
断続的に聞こえる泣き声は、6時40分を境に消えた。Aさんは線路に身を投げたのだ。
Aさんの母親が、声を震わせる。
「新宿署での取り調べが息子に自殺を決意させたのではないのでしょうか。その内容にも、疑問が残ります。例えば、痴漢の捜査にはガイドラインがあるのに、新宿署の警官はその手順を踏んでいたのでしょうか」
このガイドラインとは、昨年6月に警察庁が全国の警察本部に向けて出した通



新宿駅構内で情報提供を呼びかけるAさんの母親

達を指す。「被害者、被疑者の供述のみでは、事後の立証に困難を来す場合がある」とし、対応策として「客観的証拠の収集」に努めるよう呼びかけたものだ。
「息子の手や指に被害者の衣服や体液が付着していないかどうか調べれば、科学的な判断ができるはずですが、これは微物採取といって、ガイドラインにも書かれている。新宿署の取り調べはこうしたことを一切せず、被害者の言い分を息子に認めるよう迫るだけのものでした」（母親）

■痴漢冤罪防止グッズ 痴漢に間違われたいため、手を強制的に握った状態のままにする手袋や、携帯吊り革が有名。前者は平手によ

る女性への接触を不可能にし、後者は持てる吊り革がない時でも、両手で使用すれば手の自由がなかったことを証明できる。

事件から半年が過ぎた今も母親は新宿駅に立ち、息子の無念を晴らすため目撃者を探し続けている。それにしても、これが痴漢捜査の現状ならば、もし自分が痴漢と疑われたら観念するしかないのだろうか。『痴漢「冤罪裁判」』（小学館）の著者・池上正樹氏、弁護士の秋山賢三氏に「身を守る方法」を聞いたが（内容は右側の囲みにまとめた）、通勤族なら誰にでも起こりうる話であるがゆえ、「明日は我が身」ではとても済まされない。

By The Way